

河内長野市立三日市小学校 5年生

すくすくテストの概要

国語

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	67.4%
思考・判断・表現(書くこと)	77.8%

**概要**

読解力を求められるような問題はほとんどなく、知識・技能を問われる出題が多かった。結果から、さらに基礎的な国語の力を伸ばしていく必要があることがわかった。

**特に成果が見られた問題例**

助詞やことわざを理解する、指示語が何を表しているか回答する、ローマ字を読む、正しい漢字を書く問題において成果が見られた。

**特に課題が見られた問題例**

主語と述語の関係性や、2文を1文にする問題に課題が見られた。

算数

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	45.5%
思考・判断・表現	10.1%

**概要**

常に文章を読み、文章や資料から必要な情報を読み取りながら解答していく形式の問題であり、読解力がなければ解答することが難しい問題であった。

あきらめずに解答していたが、時間が足りなかったことも考えられる。

**特に成果が見られた問題例**

2つのグラフを見比べて、わかることを2つ選択する問題がよくできていた。

**特に課題が見られた問題例**

二つの数量の変化や関係を、表や会話から読み取り、□や△を使った式に表す問題に課題がみられた。

理科

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	50.5%
思考・判断・表現	72.8%

**概要**

「エネルギー」と「生命」の分野から基本的な問題を中心に出題されていた。

**特に成果が見られた問題例**

とじこめられた空気の性質についてよくできていた。実際に体験的に得た知識は定着率が高いと考えられる。

思考判断表現と記述式のポイントがよかった。

**特に課題が見られた問題例**

基礎的な知識を組み合わせで解答したり、グラフから読み取るだけでなく、条件に合った解答をしたりしなければならぬ問題があった。(例えば、2つ選びなさい。という問いに対して、1つしか選んでいない解答が多かった。)

理科の技能だけでなく、読み取りの能力が問われる問題に課題があった。

また、虫眼鏡の使い方が問題となっていたが、昨年度までに観察で使用しているにもかかわらず、知識として定着していなかった。実験や観察の体験を知識と結びつける手立てが必要である。

わくわく問題 (教科横断的な問題)

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	76.1%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	50.9%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	69.3%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	64.4%
E 興味関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	88.1%

**概要**

複数の資料を読み取り、条件にそって回答する問題がバランスよく出題された。無回答率が低く、本校の5年生は自分の考えを伝えようとするに意欲を持っていると考えられる。

文章読解の力が問われるだけでなく、論理的に考え、考えたことを表現するなど、複合的な力が問われる問題であった。

**特に成果が見られた問題例**

問題文に載っているピクトグラムを参考にしながら、「大阪を訪れた人にとって分かりやすい記号を描く。」という問題がよくできていた。

**特に課題が見られた問題例**

「データの活用」領域やプログラミングに関する問題である。前者は主に三年生の「棒グラフ」の単元から以前の教科書に比べ学習内容も難しくなっているため、中学年からデータを読み取り、意見を交流する時間が必要になってくると考えられる。また、プログラミングの学習は算数科に囚われずに教科横断的に取り組むことで一定の成果が上がっていくと考えられる。

**すくすくテストアンケートの概要**

児童アンケート

**【良さがあらわれた質問】**

「朝食を毎日食べている」  
 「家の中にホッとする場所ある」  
 「まわりに困っている人がいると、早く解決するといいなあと思う」  
 「困ったときに相談できる友だちがいる」  
 「難しいことがあっても、あきらめない」

**【課題がみられた質問】**

「先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等書いている」

**概要**

「朝食を毎日食べている」「家の中にホッとする場所ある」といった、家庭環境がよいことがわかりました。そして、自分の考えを積極的に発言している児童の割合が高いことから、先生に認められているという意識や、家の人からの日々の頑張りに対する称賛が、児童の積極的な発言の自信につながっていると考えられます。

**特に成果が見られたアンケート項目例**

「話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている」や「困ったときに相談できる友だちがいる」といった児童が多くいることがわかりました。

また、「難しいことがあっても、あきらめない」といった、授業に積極的に粘り強く取り組む子どもたちが多くいることがわかりました。自己肯定感が培われ、自信につながることで、難しいことも前向きにとらえ、取り組もうとする力が育っている成果であると言えます。

**特に課題が見られたアンケート項目例**

「先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等書いている」という質問には、6割以上の児童が書いていると回答していましたが、大切だと思っても、メモを取る習慣が身につけていない児童が4割近くいることが、本校の課題であると明らかになりました。

結果を受けてこれからの取り組みについては、別紙「新しい三小教育を目指して」をご覧ください。